

診療科
血液内科

疾患名
再発・難治性多発性骨髄腫

レジメ名
DBd療法(1-3コース)

投与間隔
1コース 3週間 計 3コース

商品名	一般名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日									
						day1	day2	day4	day5	day8	day9	day11	day12	day15	
ダラザレックス	ダラツムマブ		16mg/kg/day	div	備考参照	●				●				●	
ベルケイド	ボルテゾミブ	BOR	1.3mg/m2/day	sc(又はiv)		●		●		●		●			
デカドロン	デキサメタゾン	DEX	20mg/body/day	div(注1)	15分	●	▲	▲	▲	●	▲	▲	▲	●	

備 考

- 注1: day1,8,15(●)はデカドロン20mgのdiv、day2,4,5,9,11,12(▲)はレナデックスの経口投与とする。75歳超またはBMI<18.5kg/m2例、control不良の糖尿病、steroidに対する忍容性がない、または有害事象を発現した方ではday2,5,9,11,12のsteroid投与は省略可。
- infusion reactionを軽減させるために、本剤投与の1~3時間前に抗ヒスタミン剤、解熱鎮痛剤、副腎皮質ステロイドホルモンを前投薬する。具体的には、1時間前までにカロナール1,000mgを内服し、デカドロン20mg+ポラミン5mgのdivを終了する(15分間で投薬後、1時間生食100mLのみとし、その後ダラザレックス)。
- 気管支喘息や呼吸機能検査でFEV1.0<80%のCOPD例では、2日間はポラミンなど抗ヒスタミン剤の内服、短期間作用型β 2アドレナリン受容体作用薬の吸入および原疾患の治療(気管支喘息では吸入ステロイド±長時間作用型β 2アドレナリン受容体作用薬、COPDではスピリーバやアドエアなどの長時間作用型気管支拡張薬±吸入ステロイドの事後投与)が考慮される。
- ダラザレックス投与24時間以降に発現する遅発性infusion reactionを軽減させるため、必要に応じてレナデックス20mgの内服追加を検討する。ただし、ダラザレックス投与翌日にもともとレナデックス投与予定の場合は追加不要。

コース数とボルテゾミブ使用法(静注か皮下注)により枝分かれレジメンある
380-1:1コース目静注用、380-2:2-3コース目静注用、380-5:1コース目皮下注用、380-6:2-3コース目皮下注用

登録年月日
2018年2月7日

登録No.
No. 380-1, 2, 5, 6